

看護学科

講義要綱

科目	看護学概論	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 佐野 繁子				
授業目的	看護の基盤となる理論・歴史・原理について学ぶ。				
到達目標	看護の定義や主要な理論家の看護の概念を学び、人間とはどんな存在か、健康の考え方の変遷を知り、知識を使って表現する。 看護の歴史の変遷、看護制度の成り立ち、看護の動向を知り、専門職の特質を視点に看護師の役割と課題を表現する。 授業を通して看護とは何かを問い続け、現時点で自分が考える看護とは何かを表現する。				
授業概要	統計資料や事例を通して人間・健康・生活について考えていきます。ナイチンゲール・ハンダーソンについて学び、主要な理論家の看護の概念はグループで学習していきます。職業としての看護について法に注目し、専門職の特質を視点に看護師は専門職といえるかを考えていきます。授業を通して常に「看護とは何か」を問い続けます。この科目の終了時には、書き溜めたラベルをプロセスチャートにまとめ、現時点での自分なりの「看護とは何か」の答えを見出します。また、同じ仲間と看護について考えていきます。				
授業方法	講義・グループワーク				
授業展開	回数	内容	事前準備		
	1	「看護とは」を学ぶにあたり、看護を目指す自己を見つめる	わたしが看護師を目指した理由、今考えている看護師を具体的に表現する		
	2	法律と看護職能団体による看護の定義を知る ナイチンゲールの登場による変化を仲間と共有する	ナイチンゲールの登場によって看護はどのように変化したか表現する (使用した資料持参) テキストを読み看護について6つの構成要素で整理する		
	3	小テスト① 看護の対象である人間はどんな存在か考える			
	4	小テスト② 健康について考える 自分は健康か	わたしは健康か表現する 統計データから健康状態を読み取る		
	5	統計資料から考える 事例を通して考える 健康の考え方の変遷を知る	入学準備課題を振り返り、星野さんの健康の推移について図に示す		
	6	健康の考えを共有する	健康のとらえ方の変遷をテキストを読みまとめる		
	7	小テスト③ 職業としての看護 看護職の変遷、法的、就業場所の特徴を知る	看護職の資格とその特徴をテキスト読みまとめる		
	8	小テスト④ 看護師は専門職か、専門職の特質から考える ・高度に体系化された知識・技術を修得しているか(看護基礎教育と養成制度に注目)	専門職としての独自性についてナイチンゲールとハンダーソンは何と いっていたか振り返り、自己の考えを表現する		
9	・職域に関する大幅な自主性・主体性(自律性)があるか(法・看護の独自の機能に注目)				

授業展開	10	小テスト⑤ ・社会的奉仕（公共性）があるか（医療・看護サービスの特徴と対価のしくみに注目） ・職能団体として倫理綱領をもっているか（職業倫理に注目）	看護サービス提供の場と法と特徴をテキストを読みまとめる 状況を読み学生の戸惑いを想像し、自分だったらどのように考え対応するか、看護の方法Ⅱで学んだ看護倫理の知識を活かして考え表現する
	11	小テスト⑥ 看護師に求められる役割と課題を共有する 看護の質保証とその要件 看護職者の働く環境	
	12	小テスト⑦ グループワーク 担当した理論家が同じ仲間と学習成果を確認し、他のメンバーに伝達する資料をブラッシュアップ	担当した理論家の看護の概念について資料にまとめ、理論家が同じメンバーに配付
	13	グループワーク 担当した理論家の看護の概念について、他のメンバーに伝達講習	担当した理論家の看護の概念についてブラッシュアップした資料を理論家が異なるグループメンバーに配付
	14	グループワーク 看護について考えたプロセスチャートを用いて仲間に発信・共有 小テスト⑧	「学びのプロセス図解（プロセスチャート）の作成」とメンバーに配付
	15	終了試験	
履修条件	授業の多くは、事前学習を使ってすすめていきます。事前学習の目的や方法について示しますので、不明な点はそのままにせず確認しながらすすめていきましょう。仲間と看護について考えていきますので、自分の考えをもち、積極的に仲間と意見交換をして、目標達成に向けて取り組んでいきましょう。小テストは授業進度により変更する場合があります、授業内で伝えます。		
評価方法	筆記試験（小テスト10点 ・ 終了試験 70点） 授業を通して今わたしが考える「看護とは何か」をプロセスチャートに表現するパフォーマンス課題 10点 学習姿勢 10点		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 フロセンス・ナイチンゲール看護覚え書き 小玉香津子他訳 日本看護協会出版会 V. ハンダーソン 看護の基本となるもの 湯楨ます訳 日本看護協会出版会 *入学前課題図書 新装版 愛、深き淵より 星野富弘著 学研プラス		
参考書	ナイチンゲール 看護覚え書 小玉香津子訳 現代社 ナイチンゲール著作集第一巻～三巻 湯楨ます監修 現代社 V・ハンダーソン選集 小玉香津子訳 医学書院 看護学基礎テキスト第1巻～4巻 野嶋佐由美他 日本看護協会出版会 ナースが視る人体 薄井坦子 講談社 生きることは尊いこと 西岡雅子 医学書院		
備考			

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅰ	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 松本 めぐみ (10) 看護師 森 康太 (20) 感染管理認定看護師 斎藤 敦子 (6)				
授業目的	【看護技術・観察】(4) 看護技術とは何か、どのように学習していくか知る。 看護における観察とその意義について理解する。 【話す・聞く】(12) 看護における効果的なコミュニケーションを理解する。 【感染予防】(14) 感染予防の技術について学ぶ 【看護師教育の技術項目】 11-57~61				
到達目標	看護場面によくみられるコミュニケーションの実際を通し、効果的なコミュニケーションを体験的に学び、自己のコミュニケーションにおける傾向を知る。 【看護師教育の技術 単独で実施】 57スタンダード・プリコーション 58必要な防護用具の選択・着脱 59使用した器機の感染防止の取り扱い 60感染性廃棄物の取り扱い 61無菌操作				
授業概要	最初に看護の方法の学習方法など総論として講義する。 感染防止の技術・コミュニケーションの単元で構成されている。看護するうえで共通して必要な技術を講義・演習をとおして学ぶ。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	回数	内容	備考	担当者	
	1	看護の方法総論1 看護技術とは 看護の方法の学習方法		松本 めぐみ	
	2	看護の方法総論2 看護と観察		松本 めぐみ	
	3	感染防止の基本知識 感染成立の条件 院内感染と防止策		松本 めぐみ	
	4	感染予防策 スタンダードプリコーション 感染経路別予防策		斎藤 敦子	
	5	演習 衛生的手洗い 個人防護具の着脱 滅菌手袋装着		斎藤 敦子	
	6	臨床での感染対策の実際(院内)		斎藤 敦子	
	7	洗浄・消毒・滅菌 基本知識 無菌操作の基礎知識		松本 めぐみ	
	8	演習 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い		松本 めぐみ	
	9	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素とプロセス 関係構築のためのコミュニケーションの基本		森 康太	
	10	聴くとくこと、伝えるということ 看護場面におけるコミュニケーションの実際			
	11	効果的なコミュニケーションを考える プロセスレコード			
	12	プロセスレコードを用いた検討	プロセスレコード 検討会		
13	効果的なコミュニケーションを考える				

	14	看護場面に合わせたコミュニケーションの 実践	ロールプレイ 意見交換（実習室）	
	15	終了試験		森 康太
履修条件	ここで学ぶ基礎的知識はこれから看護を考えていく上での基本となります。知識を確実にもち、実践につながるようにしていきましょう。			
評価方法	終了試験及び提出物			
テキスト	系統看護学講座	専門分野	基礎看護技術Ⅰ	医学書院
	系統看護学講座	専門分野	基礎看護技術Ⅱ	医学書院
参考書				
備考				

静岡市立清水看護専門学校

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅱ	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 今井 弓珠				
授業目的	看護の基本となる共通技術を学ぶ。				
到達目標	看護の基本的な共通技術となる観察、記録、看護過程について理解する。				
授業概要	共通基本技術はどの分野のどの経過の看護をするにも必要とされる基本的な技術である。ここでは、生命を維持する働きの観察の視点と方法、看護過程・リフレクションの3つの単元を共通基本技術としてまとめ、講義・演習を行う。 【看護師教育の技術項目】50：バイタルサインの測定				
授業方法	関連する形態機能学やフィジカルアセスメントとつなげて考えていけるよう授業の時期を設定しています。看護の専門的思考の基本をここでおさえ、看護過程の演習へつなげます。				
授業展開	内容・準備				
	1	看護過程と看護の専門的思考			
	2	問題解決思考とは何か			
	3	クリティカルシンキング			
	4	看護過程 倫理的配慮と価値判断			
	5	倫理的配慮と価値判断			
	6	リフレクション			
	7	リフレクション			
	8	リフレクション			
	9	リフレクション			
	10	看護過程 情報収集・アセスメント			
	11	看護過程・健康問題の抽出から評価まで			
	12	看護記録			
	13	ハンダーソンの観察の視点：正常に呼吸する			
	14	ハンダーソンの観察の視点：正常な体温を維持する			
15	終了試験				
履修条件	看護の思考の基礎を学びます。 バイタルサインの観察技術は、患者さんの状態を知る大切な基本技術です。技術を手順で覚えようとしても身につけません。行為の意味を理解した上で、繰り返し練習をして正確な技術の習得を目指しましょう。また、正確に観察するためには物品の管理も重要となります。使用する器具の自己管理を確実に行いましょう。				
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野	基礎看護技術Ⅰ	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野	基礎看護技術Ⅱ	医学書院		
参考書					
備考					

静岡市立清水看護専門学校

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅲ	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 西谷 沙紀 (14) 石島 祐美 (16)				
授業目的	人間にとっての「食」と「排泄」の意義と必要な機能を理解し、援助の必要性と技術を学ぶ。				
到達目標	<p>患者の状況に合わせて適切な食と排泄の援助を提供できる思考と技術を身につける。患者の身体・精神状態にあった排泄援助について、アセスメントと計画を立てる。</p> <p>羞恥心に配慮しながら安全な排泄援助について考える。</p> <p>【看護師教育の技術項目】2-3~6・3-7~11</p>				
授業概要	<p>人間の生命維持に必要な栄養・食事、排泄を理解し、対象にとっての食事・排泄の意義を理解した食事・排泄援助の実際を学ぶ。</p> <p>事例に合わせた食事・排泄援助の方法を考え実施します。対象が安全で安楽に、食事・排泄のニーズが満たされるための援助について考え実施できるようにする。</p>				
授業方法	対面授業と演習で実施。演習は必要に応じクラスを2分割して行う。				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	人間にとって食べること 食事の機能、意義			
	2	機能障害が食事のニーズに及ぼす影響			
	3	食事援助の実際① 患者の安全・安楽・食事のニーズが満たされるための工夫 「食事介助をする、受ける体験」	演習		
	4	食事援助の実際② 演習①をふまえて事例に沿った食事援助の計画、実施、評価	演習		
	5	非経口的栄養摂取とは			
	6	非経口的栄養摂取の援助	演習		
	7	自分の排泄について考える			
	8	排泄の援助を計画する上で必要なアセスメントについて考える			
	9	色々な排泄方法について理解する ポータブルトイレ・尿器・便器・おむつ どの道具がどんな人に適しているのか			
10	演習 床上排泄の援助の実際				

授業展開	11	尿器・便器 おむつの装着体験	演習
	12	排便障害時の援助について理解する 便秘改善・浣腸・摘便 排尿障害時の援助について理解する 導尿（一時的・持続的）	
	13	演習 排便障害時の援助の実際：浣腸	演習
	14	排尿障害時の援助の実際：導尿	
	15	終了試験	
履修条件	<p>看護師として患者に適した食事援助をする事の意義について考えながら授業に臨みましょう。 対象にとっての食事・排泄の意義を理解し「食」と「排泄」の行為、他人にゆだねる苦痛は計り知れない。 ・排泄は、人間の尊厳にかかわる援助なので、真摯に取り組んでほしい。</p>		
評価方法	<p>出席状況 課題の提出状況・内容 筆記試験100点：食事の援助50点 排泄の援助50点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院</p>		
参考書	<p>必要時、講義でお知らせします。</p>		
備考			

静岡市立清水看護専門学校

科目	看護の方法Ⅳ	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 亀山 美穂 (20) 高野 祐志 (10)				
授業目的	環境の意義と環境調整に必要な知識・技術を学ぶ。 人間の暮らしを作り出す日常生活行動について、からだの動きに注目して学ぶ。また、運動と休息のバランスを維持することの意義を理解し、人間の動く・眠るを支える援助の方法について学ぶ。				
到達目標	快適な療養環境の整備 活動と休息の援助を安全安楽に実施する 【看護師教育の技術項目レベルⅠ】 1快適な療養環境 2臥床患者のシーツ交換 13車椅子での移送 14歩行・移動介助 15移乗介助 16体位変換・保持 18ストレッチャー移送 69安楽な体位の調節 70安楽促進・苦痛の緩和のためのケア 71精神的安寧を保つためのケア				
授業概要	環境・動く眠るの2つの単元で構成する。健康と人間の生活を2つの観点から日常生活の行動を意識しながら学ぶ。				
授業方法	対面授業、演習。演習は必要に応じクラスを2分割して行う。				
	回数	内容	準備等		
授業展開	1	環境とは 看護における生活環境	高野		
	2	リネン類の取り扱い			
	3	病床の作り方 ベッドメイキング			
	4	臥床患者のリネン交換			
	5	ベッド周囲の環境整備・事故防止の技術			
	6	運動と休息のバランス 日常生活行動、姿勢と体位、関節可動域	亀山		
	7	ボディメカニクス 理学的な視点を生かした身体の動かし方 人間の自然な動き			
	8	体位変換			
	9	人間の自然な動きを活用した移動の援助			
	10	車椅子を活用した移乗と移送			
	11	ストレッチャーを活用した移動、歩行の介助			
	12	人間にとっての眠りと休息			
	13	安楽確保の援助①褥法、精神的安寧を保つケア			
	14	安楽確保の援助②体位保持、安楽な体位の調整			

	15	修了試験
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師としてその人にあつた環境に整える事の大切さを意識し授業に臨みましょう。 ・実習において、受け持ち患者のベッドとその周囲の環境整備が自信を持ってできるよう確実な技術を身につけましょう。 ・活動に関する基本的な技術は、学生同士で安全に実施できるよう根拠を理解し、確実に身につけましょう。 ・演習や実習で出会う対象者をイメージし、技術のスキルを目指していきましょう。 	
評価方法	出席状況、授業姿勢、課題内容、筆記試験、技術試験、レポート提出について総合的に評価します。 配点：環境 30点（筆記試験20点・技術試験10点） 動く眠る70点	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院	
参考書	適宜、資料で提示	
備考		

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅴ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 井出 見也子 (30)				
授業目的	人間にとって清潔を保持することや衣生活を整えることの意義を学ぶ。 衣生活を整えるために必要な知識・技術を学ぶ。 清潔を保持するため必要な知識・技術を学ぶ。				
到達目標	人間にとっての清潔の意義について理解し、患者の状況に合わせて援助を提供できるようその方法について計画・実施する。 【看護師教育の技術教育 単独で実施】 19手浴足浴・20整容・21点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換・ 24清拭・25洗髪・26口腔ケア・27点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換				
授業概要	私たちが日常生活で行っている『清潔行動』を意識し、同じ行動、個々に異なる行動を共有し、清潔への援助へつなげるよう学習する。 友達同士での練習、患者体験を通して、自分で清潔行動がとれないときの気持ちや人からの援助を受けることに対する思いなどを考える。				
授業方法	対面授業・必要に応じクラスを2分割して演習を実施する。				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	身体・心理・社会的側面から考える清潔の意義 ・清潔・衣生活に必要な皮膚の構造と機能の学習 ・入浴の3大作用と関連する効果 ・遭遇しやすいスキントラブル ・スキンケアとは・保湿剤、洗浄剤の種類と選択など			・日常生活アンケート ・清潔・衣生活の基礎知識 ・皮膚の構造(形態機能学Ⅳ) ・ボディメカニクス・プライバシーへの配慮、倫理的配慮について ・環境調整技術・衣生活について
	2	衣生活を援助することとは ・衣生活の生理的、心理的、社会的意義・熱の移動と被服 気候・衣類の交換のタイミング・はきもの選択 ・対象に合わせた援助を考える・清潔ケアの種類と方法・ 着脱の原則 ほか ・衣生活に必要な物品			
	3	演習：寝衣交換			・寝衣交換の一般的知識
	4	演習：寝衣交換 (点滴・ドレーン等あり)			
	5	演習：お湯の効果的な使用方法			・1・2講の知識 ・湯の作用や特徴
6	演習：陰部洗浄			・陰部洗浄の一般的知識	

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法VI	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 和田 愛				
授業目的	与薬・検査における基礎的知識・技術を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬援助時の看護師の役割・技術について理解する。 2. 診療検査時の看護の役割・技術について理解する。 				
授業概要	<p>形態機能学の知識を活かしながら、安全・安楽に治療検査が受けられるよう看護師に必要な知識と技術を講義・演習を通して習得する。 演習は単独で実施できるように教員が複数でサポートしながら進める。 看護師教育の技術項目：38経口薬の投与 39経皮・外用薬の投与 40坐薬の投与 53検体（尿、血液等）の取扱い 55静脈血採血 56検査の介助 64患者の誤薬防止策の実施</p>				
授業方法	講義・演習（事例検討・患者・看護師役を交代しながら演習する）				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	安全に与薬するために	講義		
	2	与薬における看護師の役割	講義		
	3	経口的与薬の方法と注意点	講義 演習		
	4	直腸内与薬、点眼	演習		
	5	吸入、点耳、点鼻	講義 演習		
	6	貼付・塗布・塗擦	講義		
	7	検査とは	講義		
	8	検査における看護師の役割	講義		
	9	検査における看護師の役割	講義		
	10	静脈血採血について	講義		
	11	静脈血採血	演習		
	12		演習		
	13	検体検査とその扱い・測定	演習		
	14	生理検査	講義		
15	終了試験（筆記）				
履修条件	形態機能学の知識を使えるよう復習しておきましょう。				
評価方法	レポート課題・筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
参考書	写真でわかる臨床看護技術① 本庄恵子 インターメディカ				
備考					

静岡市立清水看護専門学校

看護学科

講義要綱

科目	看護の方法Ⅶ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 高野 祐志				
授業目的	ヘルスアセスメントについて看護における重要性、フィジカルアセスメントの関係性を理解し、健康の査定を行うための具体的な方法を学ぶ。				
到達目標	問診・視診・打診・触診・視診・聴診の技術を活用して得られた情報から対象の身体状態をアセスメントできる。				
授業概要	対象の身体状態をアセスメントするための問診・視診・打診・触診・聴診の技術の方法を学ぶ。 血圧測定およびバイタルサイン測定ではチューター教員を決め個人、グループで技術の習得を目指す。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	回数	内容	看護師教育の技術項目	備考	
	1	フィジカルアセスメントとは	52：フィジカルアセスメント	講義	
	2	基本診断技術（問診・視診・打診・触診・聴診）	52：フィジカルアセスメント	講義	
	3	フィジカルアセスメントに活用する血圧測定	50：バイタルサイン 52：フィジカルアセスメント	講義・演習	
	4	運動機能のフィジカルアセスメント	52：フィジカルアセスメント	講義・演習	
	5	循環機能のフィジカルアセスメント	53：フィジカルアセスメント	講義	
	6	循環機能のフィジカルアセスメント	52：フィジカルアセスメント	講義・演習	
	7	腹部のフィジカルアセスメント		講義・演習	
	8	終了試験			
履修条件	看護の対象を把握し、看護の必要性を導くための大切な技術となります。 フィジカルアセスメントを行うために必要な問診・視診・打診・触診・聴診の技術を学びます。 既に学んでいる形態機能学の知識を十分に振り返り、人体の構造をイメージしながら、講義・演習に臨んでください。 実際に学生同士で患者役、看護師役となって演習を行います。				
評価方法	終了試験、課題学習の提出状況・内容、血圧測定・バイタルサイン測定の技術習得度、出席状況（出席日数・授業態度）により評価を行います。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 看護がみえる③フィジカルアセスメント 岡庭 豊 メディックメディア				
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント 第2版 横山美樹 メディカルフレンド社				
備考					

静岡市立清水看護専門学校

看護学科 講義要綱

科目	看護過程演習	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・演習	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 木下真理子				
授業目的	事例を用いて看護過程を展開し、看護の専門的思考について学ぶ。				
到達目標	看護の考え方を学び、事例展開することで看護に必要な看護過程の理解を深める。				
授業概要	人間の心理・社会的背景、基本的欲求、生理機能の障害、生活の障害などの視点から、看護師として患者を理解する方法を学ぶ。そして、看護問題の明確化、看護計画立案を行い、根拠のある看護援助方法を見いだす。さらに援助の評価方法を学び、より質の高い援助を実施するための思考を事例を通して学ぶ。理解を深めるためにグループワークも活用します。				
授業方法	授業と演習を合わせて実施する予定です。				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	授業の進め方、看護過程の知識確認テスト なぜ看護過程を学ぶのか、自己のクリティカル性を客観的に分析する			課題提出
	2	アセスメントー1 アセスメントの視点（ハンダーソンの基本的欲求） 情報収集、情報の解釈・分析を行う			課題提出
	3	アセスメントー2 情報分析の統合化、関連図の記入			課題提出
	4	関連図の記入（GW）			課題提出
	5	問題の明確化 望ましい姿、看護問題を考える（問題の種類、表記方法、優先順位）			課題提出
	6	看護計画立案 看護計画を立てる（短期目標・期日・計画立案、計画の表記方法）			課題提出
	7	実施・評価 SOAP形式の記録、達成期日に行う評価			課題提出
	8	事例展開1 説明 シナリオワーク1			課題提出
	9	事例展開2 共同学習・シナリオワーク2			課題提出
	10	事例展開3 共同学習・シナリオワーク3			課題提出
	11	事例展開4・5			課題提出
	12	共同学習（全体像の理解、看護問題の明確化、望ましい姿）			
	13	事例展開6・7			課題提出
	14	計画した援助の実施（模擬患者に援助を実施する）・リフレクション			
15	まとめ・試験				
履修条件	<p>根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を身につけていきます。 看護になるための専門的思考を学ぶためには、今まで学んだ知識を使い、不足している点は自分で調べ考える必要があります。どのように考えたのかを意識するために、言葉で表現していきます。普段から「調べる」、「考える」習慣を身につけ、わからないことをそのままにせず、主体的な取り組みを期待しています。 課題提出期限を守り、回を重ねるごとに学びを深めていきましょう。</p>				
評価方法	1 出席状況 2 終了試験 3 事例展開の実際 4 課題提出物				
テキスト	①書名 ②著者名 ③発行所 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院				
参考書	看護の基本となるもの ヴァージニアヘンダーソン 日本看護協会出版会				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	地域・在宅看護論概論	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間	15	必修区分	必修
担当者	亀山美穂（13）木下晴美（2）				
授業目的	地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートについて理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に暮らす人々の暮らしを理解する 2. 地域・在宅看護論を学ぶ意義を理解する 3. 暮らしの中で看護を理解する 4. 地域・在宅看護の機能と役割を理解する 				
授業概要	地域・在宅は、「暮らし」の視点が大切です。医療・看護を必要としている対象はどのような暮らしをしているのか、対象とはどのような人なのかを考えていくことが必要になります。				
授業方法	講義				
授業展開	回数	内容			準備等
	1・2	地域・在宅看護の機能と特質 1) 担い手と看護を提供する場 2) 地域で暮らしつづけることを支援するマネジメント ・倫理と基本理念、権利保障 ・自己意思決定支援（ACP） ・ケアマネジメント 3) 在宅看護の目的と機能 ・健康の予防・維持・増進 ・介護予防 ・インフォーマルネットワーク			亀山美穂
	3	地域・在宅看護の意義と必要性 ・地域包括ケアシステム ・自助・公助・共助・互助. 地域・在宅看護の意義と必要性			木下晴美
	4	地域・在宅看護の対象・場の理解 ・病院（外来・入院）診療所 ・居宅（自宅・施設） ・療養通所型事業所、介護施設など			亀山美穂
	5	地域・在宅看護の対象・場の理解 ・地域にある介護事業所の視点から、地域で暮らすことを考える			亀山美穂
	6 7	地域・在宅看護の特徴 1) 制度と訪問看護 2) 暮らしの自立支援 3) 病状・病態の変化の予防と予測 4) 暮らしの中で起こる問題 5) チームケア 6) ケアマネジメントと看護の役割			亀山美穂
	8	終了試験			
	履修条件				
評価方法	出席日数 授業態度 課題提出状況 ポートフォリオ				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 在宅での療養と介護を支える制度のかしこい使い方 国民衛生の動向 医療福祉総合ガイドブック 医学書院			医学書院 医学書院 医学と看護社	
参考書					

看護学科

講義要綱

科目	地域・在宅看護論演習	単位	2	開講時期	1年後期
授業形態	演習	時間	45	必修区分	必修
担当者	石島 祐美				
授業目的	地域で暮らす人々の「健康」にむけた暮らしを実体験から学ぶ				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす市民（人々）の様々な生活の場があることがわかり、健康に向けた暮らしの実際を理解する。 ・地域の施設のひとつである「病院」について「暮らし・生活」の視点から理解する。 				
授業概要	人々の暮らしの場である「地域」を「生活者」と「看護」の視点から学びます。「健康」に向けて人々がどのような暮らしをし、考えているのかを個人でグループで考えて深めていきます。				
授業方法	演習				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	地域について調べてみよう	「暮らし」を知り、それを発表します。実際に、地域に出て様々な学びとつなげていきます。		
	2	清水区にある様々な健康に向けた生活・サポート・取り組みについて調べ、マップを作成			
	3	清水区にあるサポート・取り組みや場所・医療・福祉施設について調べ、マップを作成			
	4				
	5	実際に訪問し、インタビューなどを行う。			
	6				
	7	上記のまとめ・GW			
	8	地域にある「暮らし」を支える取り組みについて発表			
	9				
	10	地域・在宅看護の実習に向けて			
	11				
	12		11月の地域・在宅看護論実習Ⅰ前半の学びのまとめと情報共有の時間となっています。お互いの学びと情報の共有を行います。		
	13	地域・在宅看護実習での学びの振り返りと情報共有			
	14				
	15				
	16		地域・在宅看護論実習での学びをグループワークを通して発表を行います。		
	17	地域・在宅看護実習での学びの共有と発表			
	18				
	19				
	20	地域の施設の一つである「病院」での暮らしを知る	静岡市立清水病院で行った基礎看護学実習Ⅰで出会った患者の生活を想起し、療養生活について考えます。		
	21				
	22				
23	まとめ				
履修条件	暮らしの制度・静岡地域学と地域・在宅看護論の履修が進んでいること				
評価方法	出席日数 授業態度（演習への参加態度も含む） 課題提出状況 ポートフォリオ				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 実習要綱 在宅での療養と介護を支える制度のかしこい使い方 医学と看護社 医療福祉総合ガイドブック 医学書院				
参考書					
備考	71：精神的安寧を保つケア 65：安全な療養環境の整備				

看護学科

講義要綱

科目	精神看護学概論	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義・演習	時間	30	必修区分	必修
担当者	看護師 森 康太 (10) 精神保健福祉士 酒井田 愛香 (20)				
授業目的	精神看護学の基盤となる「こころ」を様々な視点から理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会におけるこころの健康の現状を知り精神看護の必要性を学ぶ。 2 こころの健康について学び、看護師の役割を理解する。 3 精神保健について理解し、精神保健活動について学ぶ。 4 こころを病む人を取り巻く社会の現状と歴史を知り必要な支援について考える。 				
授業概要	本講義においては、主体的なコミュニケーションや学びを大切にする。したがって、積極的で対話的な参加態度を希望する。 自己理解や臨床に生かせる知識習得のため、講義中いくつかの心理検査を実施予定。				
授業方法					
授業展開	回数	内容			担当者
	1	開講オリエンテーション こころとは何か、こころの健康とは何か考えてみよう			森 康太
	2	ケアの人間関係 自分について知ること、相手を知ろうとすること			森 康太
	3	こころのしくみと発達			酒井田愛香
	4	心の仕組みとパーソナリティ、環境			酒井田愛香
	5	演習 自己理解のための心理検査1 (質問紙法)			酒井田愛香
	6	ストレスのメカニズム 演習			酒井田愛香
	7	ストレスマネジメント 演習 認知行動療法			酒井田愛香
	8	演習 リラクゼーション法： マインドフルネス・筋弛緩訓練・自律訓練法・呼吸法			酒井田愛香
	9	自己理解のための心理検査2 (投影法) バウムテスト・雨の中の私			酒井田愛香
	10	家族のシステムとコミュニケーション/演習 動的家族画			酒井田愛香
	11	グループ (集団) のとらえ方			酒井田愛香
	12	カウンセリングのエッセンス/演習 ロールプレイ			酒井田愛香
	13	生活の場と精神保健、静岡市の精神保健の現状			森 康太
	14	ケアの人間関係 関係性を理解すること (演習)			森 康太
15	終了試験			森 康太	
履修条件	教科書をよく読んで臨むこと				
評価方法	講義の出席状況・レポート・筆記試験を総合的に評価する。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 ・補助教材や関連資料も使用するが、各講義において配布する。				
参考書	人間対人間の看護 ジョイス・トラベルビー 医学書院				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	成人看護学概論	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修
担当者	看護師 和田 愛				
授業目的	成人看護の対象を理解し、健康支援をするための基礎を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人看護の対象である成人（大人）について、成長・発達過程からみた成人の特徴を理解する。 2 成人期の健康を支援する理論の活用について知る。 3 成人の健康の動向について統計を読み解く。 4 成人の保健・医療・福祉政策について知り健康支援を考える。 				
授業概要	<p>成人期の対象の理解のために、まずは自分自身や自分の周囲の成人期の人を手掛かりに生活を営む様子を調べ成人期にはどのような身体的・心理精神的、社会的な特徴を知る。成人期の社会生活や暮らしに目を向け、働くこと、家族関係、生活スタイルなどの実状を知る。</p> <p>様々な統計から、成人期の健康問題を知る。そのような成人期の健康を守るための保健・医療・福祉政策を調べ、成人期の対象が地域社会で健康状態を維持しながら生きられることを支援できるように基礎的な知識を学ぶ。</p>				
授業方法	講義				
授業展開	内容				
	1 成人の生活と健康 成人期を生きる人とはどのようなひとなのだろうか				
	2 成人の健康レベルや状態に対応した看護④ p 92～158 ヘルスプロモーション				
	3 成人の健康レベルや状態に対応した看護① 人生最期のときを支える看護				
	4 成人の健康レベルや状態に対応した看護② p 240～238 健康生活の急激な破綻の状況にある人を支える看護				
	5 成人の健康レベルや状態に対応した看護 慢性病とともに生きる人を支える看護				
	6 成人への看護アプローチの基本1 大人の学習と症状マネジメント・行動変容を促進するアプローチ				
	7 成人への看護アプローチの基本2 意思決定支援				
	8 成人期を生きる身近な人の健康を支援するための提案				
履修条件	計画的に予習し臨むこと。 日頃から健康問題や健康支援に関する新聞記事に注目し集めておくこと。				
評価方法	小テスト・課題レポートで評価する				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向2024/2025 厚生統計協会				
参考書	健康づくり対策に関する新聞記事				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	老年看護学概論	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間	15	必修区分	必修
担当者	看護師 今井 弓珠				
授業目的	<p>少子高齢化が加速しているわが国において、老年看護に求められる期待は大きく、看護実践の対象者の多くを占めている。そこに関わる私たちは、老年期の対象理解は必修である。老年看護の意味を深めながら、住み慣れた地域で暮らす生活の視点を学び実践に繋げていきたい。また、自分自身の老いを体験する前に、未知なる老いの世界を探索し考えることから、未知なる自己の人生をも思考し発展させ深めたい。</p>				
到達目標	<p>1. ライフサイクルの中で老年期をとらえ、老年期にある対象の身体的・心理的・社会的機能の特徴と生活に関連づけて理解する。 2. 高齢者が地域で暮らしていくための支援を理解する 3. 高齢者の課題を理解し、高齢社会の中で求められている老年看護の目標・役割を理解する。</p>				
授業概要	<p>・自分を取り巻く社会から、いずれ皆さんも往く道としての老年期をより豊かに迎えられるように、自らの周りを改めて見つめ自分のこととして考えてみよう。 ・日頃から政策や社会の時事に関心をもって、現代の高齢社会について見聞し、実践的な看護について考えてみよう。 (高齢者・生活・生命・医療倫理について、新聞・テレビの情報に積極的に目を向けよう。)</p>				
授業方法	<p>講義・グループワーク ①地域・在宅看護論実習の体験から高齢者とのコミュニケーションを振り返る ②介護福祉士、社会福祉士を目指す学生と関わり互いの役割紹介</p>				
授業展開	回	講義内容	ワーク	準備等	
	1	・超高齢社会の現状の理解 ・高齢者の身体的・精神的・社会的特徴の理解		今井弓珠	
	2	・高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴と生活への影響を関連付けて考える (インタビューを活用する)	GW：身近な高齢者へのインタビュー内容を活用		
	3	・高齢者の特徴・死生観について、実際の関りから学びを深化させる ・対象の発達課題を捉える意味を振り返り、実際の場面を活かして考える	GW：高齢者とのコミュニケーションの振り返り (地域・在宅看護論実習の体験より)		
4	・社会の変化に伴う法律や支援体制の変遷を知る ・法律や支援体制について、実際の体験と関連付けて考えることで、高齢者が地域で暮らすことについて考える	GW：実習での体験を活用			

	回	講義内容	演習・ワーク	準備等
授業展開	5	・老年看護を実践するにあたり必要な理論・概念について理解する ・理論・概念を実際の体験と関連付けて考える	GW：実習での体験を活用	今井弓珠
	6	・権利擁護を理解するために必要な用語について理解できる ・権利擁護の必要性を学ぶ ・専門職連携教育（IPE）の必要性を学び、看護の専門性と役割について考える	GW：実習での体験を活用	
	7	・高齢者を取り巻く多職種の理解・役割 専門職連携教育（IPE） （看護師・介護福祉士・社会福祉士）	介護福祉士・社会福祉士を目指す学生と関わり、互いの役割紹介	
	8	終了試験		
履修条件	<p>老年期という自分が体験していない未知の世界の学びです。講義内容を意識して、各自で事前学習して授業に臨むことを希望します。また、体調管理して意欲的に参加してください。</p>			
評価方法	<p>①筆記試験（60点） ②課題の提出状況 ③GWの評価（資料の作成・発表） ④授業への参加状況</p>			
テキスト	<p>①書名 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 国民衛生の動向</p>		<p>②著者名 ③発行所 医学書院 (財)厚生統計協会</p>	
参考書				
備考	<p>理論・概念 サクセスフルエイジング、コンフォート理論、 ストレングスモデル、エンパワメント理論 制度 介護保険制度、高齢者医療確保法、生活保護</p>			